

コード No. 18667

**Anti-Human
NFκB p65 (C) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 μg

- はじめに : 1986年に免疫グロブリンκ軽鎖遺伝子が成熟B細胞特異的に発現するために必要なエンハンサー領域に結合する転写因子が同定され、**Nuclear factor κB (NFκB)** : エンハンサー中のB領域に結合する因子)と名付けられました。その後、NFκBは、p50とp65のヘテロ2量体であることが明らかにされ、さらに、それぞれ、cDNAクローニングより**c-Rel** (脾臓に腫瘍を誘発するトリレトロウイルス (reticuloendotheliosis virus strain T)の発がん遺伝子タンパク)と高い相同性を有することが明らかにされ、現在では**Rel**ファミリータンパク質に分類されています。
- シグナル伝達系において、NFκBは細胞質内で**IκB**と複合体を形成し、不活性化されています。NF-κBは多くの細胞に分布している転写因子であり、種々の刺激に伴い**IκB**が分解されることにより、核に移行し種々の遺伝子発現を制御すると考えられています。
- 免疫抗原 : Human NFκB p65 protein のC端部分合成ペプチド (SIADMDFSALLSQISS)
- 精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態 : 1% BSA, 0.05% NaN₃含有PBS 1.0 mLに溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5年間安定
: 溶解後 -20 °C 保存 2年間安定
- 使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 5 μg/mLにて使用可能
(ホルマリン固定、パラフィン包埋切片: マイクロウェーブ処理)
: ウェスタン・ブロッティング 1 ~ 5 μg/mLにて使用可能
- 特異性 : Human KG-1 Cell Line および Human Raji Cell Lineにて確認
- 交差性 : 抗原に用いた合成ペプチドの配列は、マウスと100%の相同性がありますが、マウス試料を用いた解析は行っていません。